

# 私が 津和野高校を選んだ理由

---



越えて、行こう。  
地域みらい留学

地域みらい留学  
高2留学 365

# 全国から学びにくる 仲間と出会える



## 都府県別生徒数データ (令和3年5月1日現在)

上記のほか、地域みらい留学 365 生（東京から 2 名）

# 津和野高校の多様な生徒

津和野高校は、ツコウの愛称で地域のひとから親しまれる、津和野町唯一の県立高校です。現在、約200名の生徒が通う男女共学の普通科高校。田舎にあるフツの高校だけど、フツではない、ちょっと違った雰囲気がある高校です。

なぜなら、**ツコウには多様な生徒が集まる**から。

地元生や益田市などの県内他地域生だけでなく、東京や大阪などから留学してくる県外生、そして高校2年だけ過ごす1年留学生。教室内では、日本全国各地の方言が飛び交う多様性にあふれた環境があります。

また、津和野町は「まち全体が学びの場」を目指す町。保育園から小・中学校、そして地域の大人まで、すべての年齢の人と身近に触れ合えるのがツコウのもう一つの大きな特徴です。

そんな環境の中で、「やってみたいをやる」「あなたの一步に寄り添います」を合言葉に、さまざまなチャレンジがツコウ生から日々生まれています。

自分のことを身近な大人に気軽に相談できる、自分の思いつきやチャレンジに周りの大人がこころよく協力してくれる、**高校全体が、そして、まち全体が、多様性を受け入れてくれる、安心してチャレンジさせてくれる、それがツコウ**です。

この冊子では、そんなツコウで高校生活を送った高校生の生の声を集めました。ツコウを少しでも感じてもらえたら嬉しいです。

※本文中に出てくる「コーディネーター」は、津和野高校内に常駐しています。生徒と地域をつなげてくれたり、活動をサポートしてくれる、先生とはまた違った立場の大人です。



ツコウに来たら...  
夢が広がる!

やりたいこと  
実現できる

**地元**

(津和野中学校)

から  
ツコウへ

いわもと かねで  
岩本 楓

わだりあ  
和田莉綾 (津和野)

## 身近な人が通っている。けど、勉強ばっかりの高校生活？

—中学生の頃、津和野高校にはどんなイメージを持っていましたか。

**和田** 二人の姉兄から話を聞いている時は、勉強ばかりの生活で、たまに行事があるという認識でした。

**岩本** 私も、ひたすら勉強しているイメージでした。中学生の頃から通っていた町営塾 HAN-KOH で一緒に勉強していた高校生はいつも勉強していたため、休みもあまりなく、常に勉

強に追われていると思っていたからです。勉強以外の面では、高校生と地域のイベントで一緒になったことから、優しい先輩がいる印象でした。

**和田** 勉強面については HAN-KOH を使うことができ、テスト前には先生が一对一で勉強を教えてくれると聞いていたので、安心していました。

## 自分が想像していたことの、一步・二歩先の体験

—入学してみてもギャップはありましたか。

**和田** 総探(※)など座学だけではない、大学のような授業があり驚きました。

**岩本** 総探をはじめ、勉強以外の時間も充実していたので、思っていた以上に自分の好きなことができる環境でした。先生も話しやすかったです。

**和田** 2年生のころからは、chrome book というパソコンを活用した授業も始まりました。課題について自分でレポートを作るというものもあり、より一層大学のような授業になりました。パソコン操作は初めてでしたが、徐々に慣れてきました。

**岩本** 私もパソコンがわからないなりに調べながら学び、体育祭の時にはリレーの走順を、エクセルを使って走者のタイムを計算しながら作成しました。その走順で見事優勝することができたので、とても嬉しかったです。

—お二人とも総探の時間が印象に残っているようですが、どのような取り組みをされましたか。

**和田** 私は、海洋プラスチック問題について調べました。元々環境問題に興味があったことと、生物の授業の中で海洋プラスチック問題に関する映像を見て衝撃を受けたことがきっかけ

けでした。

調べるだけのつもりでしたが、二人の同級生と打ち合わせを重ね進めていく中で「調べて知ったことを伝えたい」という考えに至りました。学校内だけでやるつもりでしたが、コーディネーターの方々のサポートもいただき、津和野小学校の5・6年生向けに、環境に関する授業とゴミ拾いイベントを実施しました。

**岩本** あれはたまげたね。

**和田** たまげた。

**岩本** 私は、小学生を対象にしたイベントを行いました。元々、地域の人に話しかけられることが好きで、地域の人と話せる機会を増やしたいと考えていました。

また自分の興味を考えた時に子どもが好きだと気づきました。そのことを友人に相談し「じゃあ一緒にやろう」とイベント開催が決まりました。

※総探：「総合的な探究の時間」のこと。地域の資源・人材を活かした選択制体験講座やフィールドワーク、プロジェクト活動などを行います。

## 一人じゃないから、想いが動き出す。

—中学生の時の自分と比べて、高校3年間を通してどんな変化があったと感じていますか。

**岩本** イベントを企画する機会を通して、地域の人から誘われたり、話かけてもらえることが増えました。それが何より嬉しいです。

また、コミュニケーション能力も高くなったと感じています。中学生の時の自分は「これがやりたい」と思っても、それを上手に伝えることができませんでした。様々な経験を通して、よく話すようになっただけでなく、自分のやりたいことを言葉にし伝えることがちょっとずつできるようになってきました。

**和田** 私は、行動力と計画性が身についたと思います。イベントのチラシや授業のスライドを自分で作る上で、いつまでにやらなくてはいけない、という締め切りがあったので計画の必要性を感じました。

—それまで経験がなくても、イベントをすることができたのはなぜだと思いますか。

**和田** 一人じゃないからだだと思います。コーディネーターの方や先生・地域の方が、すぐ協力してくれるので、安心してやりたいことができるなと思います。

## 周りの大人が向き合ってくれる

—あなたにとって津和野高校とはどんな場所ですか？

**岩本** 自分のやりたいって思ったことを実現できる場所。

**和田** 同じこと思った(笑)。

**岩本** 近隣の他の高校と比べ、生徒数が多くないため、先生や HAN-KOH のスタッフ、コーディネーターなど、近くの大人に「これをやりたい」と伝えた時に、しっかり向き合ってもらえました。賛成してくれたり、話を聞いてくれたり、他の人に話をつけてくれたり、手伝ってくれたり、そういうサポートをしてもらえるので、本当にやりたいことができます。何度やっ

たことか(笑)

—津和野高校を検討している人に向けて

**岩本** 先生たちも明るく、生徒間の上下の交流も活発なので、過ごしやすいです。地域の人たちも含め、温かいところだと思います。

**和田** 自分のやりたいことが楽しくできる場所です。3年間経てば自分が成長したことを実感できる、そんな機会がたくさんあります。





おかむらゆうき  
岡村悠稀

### 「やりたいことがない自分でも、やっつけよう」

中学3年生になり自分の進路を考える時期、多くの周りの人たちは「サッカーをやりたい」「建築士になりたい」といった目標・やりたいことが明確にあり、それが叶う進路選択をしていました。一方私は、やりたいことが明確にない状態で、隣の市の高校へ見学に行っても「夢や目標を持っていない今の自分には合わない場所」と感じていました。私の姉がツコウ卒業生なので話を聞いていたり、HAN-KOHという津和野高校内にある町営塾に中学生の頃から通って

たこともあったり、身近な存在であったことから、ツコウのオープンスクールにも参加しました。特に「マイプロジェクト(以下マイプロ)」という生徒が自分の興味あることに向かって様々なフィールドを舞台に活動していくものの存在を聞いて、「楽しそう。夢や目標があまりない自分でも、この高校でならやっつけよう」と直感的に感じました。

### 変化を嫌っていた私が、チャレンジすることを学んだ。

入学してみると、プロジェクター使って授業を説明してくれる先生がいたり、友人が増えたり、変わった行事があったりと、とても新鮮でした。勉強は元々嫌いでしたが、先生が中学校のころと変わらないくらい身近な距離感で、わからないことを聞きやすかったこともあり、「勉強を頑張ろう」と素直に思える環境から、好きな教科が増えました。2年生の時に総探で「高校生と日原地域の子どもをつなげる」という取り組みを行いました。活動の一貫で地域の食材を使い、地域の方々や子どもたちと一緒にご飯を作る、という食イベントに参加した際、自分が学校給食が好きだったことを思い出しました。そこから「食に関わる仕事をしたい」と気づき、大学では栄養学を学ぶこ

と決めました。姉の友人で栄養士をやっている方からも話を伺い「大変そうだけどやってみよう」と思い進路を決めました。私は高校の活動の中でやりたいことが見つかった、ということ以外にも「チャレンジすること」を学んだと思います。中学時代は変化を嫌っていて、慣れないことは絶対やりたくなかったです。しかし津和野高校では、周りを見れば「何かやってみよう」という子が、慣れないことを始め、いろんな挑戦をしてみているので、自分も少しずつ「何かやってみようかな」って思うようになり、チャレンジすることに前向きになってきました。

### 小さな夢でも、実現できる場所かもしれない。

なんでもない日々が楽しく充実していて、本当にあっという間の3年間でした。津和野高校は、自分の想像できなかったことが体験できる、そしてどんな夢でも実現できる場所なんじゃないかなと思います。自分が興味を持ったことを誰かに伝えると、先生やコーディネーターを始めとした大人が、また別の誰かにつなげてくれる。そうすることで、やりたいことの実現に近づく、というのが津和野高校の特徴だと思います。

何より大人だけでなく、高校にいる周りの友人も考え方が一緒なので、お互いの「やりたいこと」に理解・協力してくれます。活動に誘ってもらったことがきっかけで進路が決まった友人もいました。周りの友人・先生・コーディネーター・つながる地域の大人を通じて、自分の考えが変わってくる。中学生の私にはなかった「夢」を叶えられる。津和野高校はそんな場所でした。





## 近郊 から ツコウへ

おかざきだいしん  
岡崎大真 (益田)

### 「楽しかった」から企画に取り組んでみる

益田市内の中学校に通っていたので、津和野高校の情報はあまり入っていない中で入学を決めました。なんとなく、大人しい生徒が多いのかなって思いましたが、思っていた以上に活発な先輩がたくさんいて、寮での生活も自由に楽しく過ごすことができました。

2年生になり、総探をやるにあたって、何をするかを考えた時に、中学校の時に学校行事で行われていた「お化け屋敷企画」が楽しかったので、それをやってみたいと思い、その企画に取り組みました。

### 今まで気づけなかった裏側を、体験することで見えたこと

「お化け役として、みんなを脅かして楽しめたらいいな」という遊び半分の気持ちで、企画を始めました。しかし、実際に実現のために必要な行程を考えていくと、お化け屋敷という場所・空間を作るだけでなく、裏でたくさんのごをする必要があるとわかりました。印象に残っていることとしては、小学生を対象に企画を行うために、企画書を作り、小学校の校長先生にアポイントを取って、企画の説明をしに行きました。また、企画の準備を進める中で当日全体を把握している人がいないと何か起きた時に対応できないため、裏方に徹した

人が必要であることに気づきました。そのため私は本番、脅かす側ではなく裏方に回っていました。やりたかったお化け役をやらずとも、お化け屋敷企画に向けて、計画し動いていくことが楽しく、やりがいがありました。次々にメモ帳へと予定・日程を書いていくことは「活動している・進んでいる」という実感を与えてくれました。また、友人や先生・コーディネーターの方を中心に、協力者が動いてくれることが嬉しく、それも自分が活動を続けるモチベーションにも繋がっていきました。

### ここでしか体験できないことがある

ツコウの総探は、私にとって印象的な体験の一つになりました。ここは、自分のやりたいことに対して、意欲があれば先生やコーディネーターの方からもいろんな提案をもらえる、周りのバックアップが強い学校です。様々な事例を上げてきて、自分のやりたいことに繋げてくれたり、綿密にコミュニケーションを取ってくれたりしました。行動する意思があれば、なんでもできると感じています。

津和野高校は、他の高校じゃ経験できないことがたくさんあると思います。そして、やりたいことがなくても楽しめる場所です。勉強方法も新しいことに取り組んでいます。授業中、横の人と意見を交わしたりグループワークをしたり、PCを活用してネット情報なども踏まえいろんな意見を共有できるので、答えが増える。私も、英語が得意ではなく、苦手な方でしたが、授業を通して自分の答えにたどり着くことが楽しかったです。

### たです。

正直なところ、これらを含めた津和野高校での経験を通して「こんな仕事をしてみたい」というような明確なキャリアイメージを見つけれられたわけではありません。しかし、大学に進学し、そこでも今回のお化け屋敷のような企画をやってみたり、ボランティアをしたり、自分で企画する、ということができたらいいなと考えています。

越えて、行こう。

## 地域みらい留学

地域み  
留学  
ツコ



さくらはるな  
櫻井晴菜 (大阪)

### 自分がいた場所とは、違う場所

一津和野高校や『地域みらい留学』は、  
どのような経緯で知りましたか

**池田** 中学3年生の春に、たまたまネットで見つけました。当時から、通勤電車に乗らなくてはいけない、都会の大きな学校が嫌で、できれば違うような学校に行きたいと思っていました。『地域みらい留学』は、まさに自分が求めているような制度だったため、興味を持ちました。

**櫻井** 私は中学3年生の夏ごろ知りま

### 勢いでいろんなことに挑戦して

一津和野での学校・生活の中で、どんなことに取り組んでいましたか

**池田** 小学生のころに海外で少し生活をしたことがきっかけで、中学2年生のころから、高校生の時に海外留学に行こうと考えていました。『地域みらい留学』をした上で、海外留学しているのはレアキャラかもしれないですね(笑)。

いけだりき  
池田理葵 (神奈川)

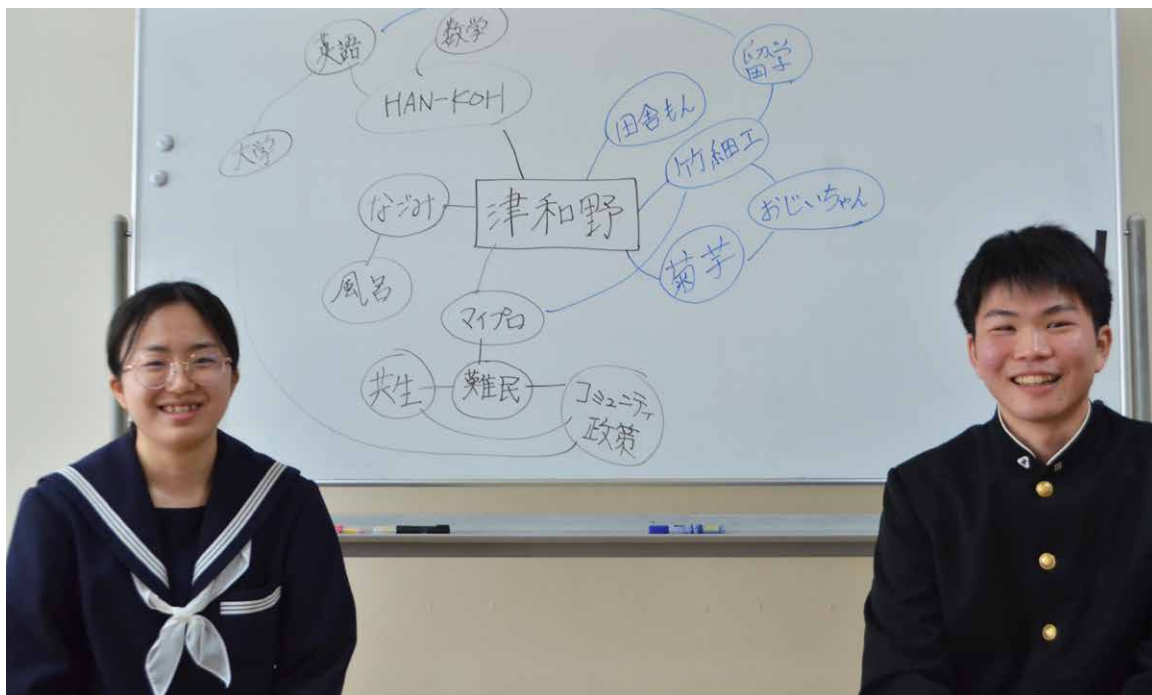


した。ちょうど夏休みに『地域みらい留学』を紹介するイベントがあったので、行ってみました。大阪の高校に行きたくないというより、友達と同じ高校に行きたくないと考えていました。これは、友達との関係が悪くなった訳ではなく、私自身が友達と長い年月ずっと一緒にいることが少し苦手なためでした。そのため、できる限り環境が違う場所に行きたいと思っていました。

いった3年間

海外留学に行く前に、お土産として自分の作った竹細工を持っていこうと思い、高校近くの道の駅で竹細工を教えている90歳のおじいちゃんから竹細工を習っていました。

ただ、そもそも竹細工に取り組み始めること自体が唐突だったこともあり、全て終わらず中途半端な状態で留学に行くことになってしまいました。



この取り組みだけでなく、三年間を通じて、見切り発車で「何かやってみよう」と始めてしまうことが多かったですね。

**櫻井** でもそのくらいの勢いがないと、何も始められないですよ。

津和野高校に来ることを決めること自体が、見切り発車だったので(笑)。高校三年間って振り返ると短いんですけど、見方を変えると長いです。やりたいことや計画を詰めすぎるより、勢いで来てしまうくらいの姿勢の方がいいのではないかなと思います。

### 自分にできることの積み重ねが習慣に

一様々な経験をされているお二人ですが、その中でどんな成長があったと感じていますか

**池田** 一つは、様々なことを見切り発車で始めてしまい、それは結果として中途半端な状態で終わってしまうことが多かったので、少しは考えてからやろう、と思うようになりました。

あとは、今回の取材のように意見を求められた時に、複数人いたらまず私から話し始める、ということができるようになってきたと思います。

**櫻井** 私も動く前に考えられるようになった気がします。あとは中学生の時よりも、勉強するようになって、また違う視点で見られるようになりました。勉強が習慣化してきたからこそ、

私は、高校2年生の総探で、難民問題を調べました。発表もできたらいいなと思いましたが、時間が足りなくなってしまい、最終的には諦める形になりました。ただ、結果的にその経験が私の進路選択にも影響を与えてくれました。

またその少し前には「せっかくこっちに来たんだから、なんか爪痕残すぞ」という想いから、マイブロに関心がある高校生を対象とした島根県の合宿イベントに参加したり、芋煮会という地域のイベントに参加したりしたこともありました。

勉強ができる人に尊敬の念を抱くようになりました。

—授業は楽しいですか？

**櫻井** 楽しいですね。英語の授業では、パソコンを使ってスライドにまとめて発表、というものがあったので楽しかったです。

**池田** 授業がわかりやすい先生も多いと思います。

**櫻井** 授業以外の場でも、わからないところで聞きに行きやすいことも大きいですね。「センセイオフィス」と呼ばれる職員室は、綺麗で足を運びやすいです。学校全体として、先生と生徒の壁があまり感じられないと思います。



地域系部活動グローバル・ラボでの活動「ツワノ農園」

地域みらい留学とは、都道府県の枠を越えて、日本の各地域の学校に入学し、充実した高校生活をおくること。北海道から沖縄まで日本全国各地の高校が留学先になっており、そこでしかできない体験と新しいチャレンジが繰り広げられています。

中学卒業後の3年間で地域で過ごす『地域みらい留学』。日本ではじめての国内単年留学、高校2年生の1年間で地域で過ごす『地域みらい留学365（高2留学）』。津和野高校では、この『地域みらい留学』の2つの制度で来ている生徒が全校生徒の約3割（69名／208名）在籍\*しています。

\* 地域みらい留学 365 の生徒の在籍は通っていた出身高校となるため、この数に含まれていません。

#### 一勉強の習慣化の背景には、どんな出来事がありましたか

**櫻井** きっかけは、大阪から離れ、環境を変えるからには勉強も頑張りたいと思っていたことだと思います。1年生の時、それだけでなく地域のイベントなどの課外活動にも関心を持っていました。つまり、なにかもやろうとすすぎていたんですね。2年生になってからは、徐々にやることを減らしていきました。

3年間で、自分に合わない「飛ばしすぎはダメ」と気づくことができました。

自分にできることをやっていく、の積み重ねが勉強の習慣につながったと思います。

### すごいことをしなくても、来ていい場所だと思う

#### 一津和野高校はどんな場所でしたか

**櫻井** 漠然とした「爪痕残したい」という想いがあったから津和野というフィールドを活かせたと思っています。自分の志を強く持てば、それと同じくらい強く支えてくれる人がいるので、本当にいい学校だなと感じています。進路も、この高校でなければ中学生の頃と変わらず看護系に決めていたと思いますが、総探の経験を通して「コミュニティ政策」という進路を選ぶことができました。

**池田** この高校は「個性派揃い」だと思います。人数が少ないからこそ、みんなの個性が目立つ場所になっていると思います。

**櫻井** それと、何気ない話になりますが、津和野で生活していると、地域の小学生とかが、気軽に挨拶してくれることがすごく嬉しいです。

**池田** 車に道譲ってもらった後とかもみんなお辞儀してて、す

ごいと思うよね。

#### 一ツコウを検討している人へ

**櫻井** 津和野高校が有名になったがゆえに「津和野高校に来たらマイプロをしないとイケない雰囲気」もある気がします。しかし、マイプロの活動は普通の高校生以上のことをやっている、とも思います。「自分はこんなにできるかな」と思う人もいるかもしれませんが、自分が今まで育った環境を離れて、知らない人ばかりの中で生活をするということも、なかなかできる経験ではありません。それだけを求めてきていいと思います。周りと比較すると怖気付いちゃうけど、自分は自分でいいし、すごいことをしなくていいんだと思います。

**池田** 何かやりたいことがある人は、中身や計画を「なんとなく頭に思い浮かべるくらい」でいいので、考えられているとスムーズに物事が動いていくと思います。また、特にやりたいことがない人でも、高校生活を十分に楽しめると思います。

地域みらい留学

高2留学

365

高2留学

地域みらい留学 365

で  
ツコウヘ

しのみやありさ  
四ノ宮有理沙 (東京)

## 「このままでいいのかな」環境を変えるための第一歩。

新型コロナウイルスの影響から学校に行けない時間が続き「このままでは高校3年間何もできずに終わってしまうのではないのか」と考えるようになりました。

私が通っていた東京の学校は、中高一貫校で進路を決めるタイミングが早く、高校一年生の段階で希望する大学と学部を決めていました。ただ、今進路を決めるにはあまりにも情報が少なすぎるし、親元を離れる経験もしてみたいと考えていました。東京生まれ、東京育ちで、このまま大学も東京にいたら、

一生東京出ないんじゃないかなって思っていたためです。「自分が全然違うことを考える環境にいきたい」の一心で『地域みらい留学 365』を活用しました。

『地域みらい留学 365』の取り組みは他のいくつかの高校でも行われていますが、津和野高校のオンライン説明会に参加した時、同学年の人たちが話をしてくれて、自分の意見を楽しそうに言っているところに惹かれ、「自分もそうなりたいな」と思い津和野にいきたいなと思いました。

## フレンドリーな先生。いろんな地方から集まる同級生。何もかも違う環境

津和野高校は、先生がとてもフレンドリーだと感じました。校長先生や教頭先生が、学校の掃除に参加しているという光景は衝撃的でしたし、担任の先生も面談で親身になって聞いてくれました。

また、県外生が多いことはやはり新鮮でした。「みんな違う方言を話している状況は不思議」で、いろんな特徴を持っている人たちと友達になれることが面白いと感じました。近くにコンビニが一軒しかないことはちょっと不安でしたが、それ以上に高校の生活を楽しく過ごすことができました。

部活を通して、地域のイベントにも多数参加しました。県外生が多く所属する部活でしたが、イベントに参加すると地域の方々からお礼を言ってもらえて、自分たちが受け入れられている

ような気がして嬉しかったです。津和野に来てから、大人から敬語で話してもらえたり、フレンドリーに接してもらえたりと、「自分を一人の人間として見てもらっている感覚が新鮮」でした。一つ感じたイメージのギャップとしては、津和野高校のみんながみんな自分の活動している訳ではない、ということでした。ここに来る前は、ほとんどの人が自分の興味がある活動をしているかと思っていました。しかし実際、なかなか自分から踏み出せないタイプの人もいるんだな、ということは来たからこそわかったことでした。

それでも一年間みんなと一緒に過ごす中で、尊敬できる同級生がたくさんおり、とてもいい出会いになりました。

## 「やってみたらいいじゃん！」に背中を押されて

自分の環境を変えるために津和野へ来たことによる一番の変化は、明るくなったことです。これは、両親にも津和野高校の先生にも言われたことでした。

自分自身で、人の前で話すことに抵抗がなくなったなど実感しています。「今まで、前に出るタイプではなかった」、東京の頃にはその機会すらほとんどありませんでした。しかし、イベントに誘ってもらい「人前で話す」という経験をさせていただいたり、自信がなくて迷っていることにも「やってみたらいいじゃん」と背中を押してくれる大人の方がとても多かったので、だんだんと慣れて、自分の意見を話せるようになっていきました。そんな経験から「みんなに合わせるより意見を持っていた方が

いい」と思うようになりました。人の意見を否定しない、というのが前提にあると思いますが、「意見を出してみると、物事が動き出す、ということを実感する機会」がたくさんありました。

津和野高校に来る前、説明会で出会った同級生と同じように、自然と私も自分の意見を言うようになっていました。この一年で、自分は本当に変わることができたと感じています。なかなか環境を変えられない人たちにも、ぜひこの体験をしてほしいという想いが募り、現在『地域みらい留学 365』を広げる取り組みの企画提案を行っています。今では、留学事務局の方と連絡を取り合い、実現に向けて動いています。

## 違う環境でチャレンジしたい人へ

津和野高校は、私を受け入れてくれ、変化につながった場所です。結果として、「津和野に来る前に思い描いていた進路にも影響を与えてくれました」。

何か一つのことに固執して学ぼうと思っていた当時とは違い、今はなるべくいろんな分野を学び視野を広げられるところに行きたいと考えています。津和野で出会った多くの大人は、広い視野をもって地域を舞台に活躍していると感じました。私もそういう人たちのように、いろんな視野を持って、地域に出ていける人になりたいです。成長できる機会がとても多い『地域みらい留学 365』を活用することで、自分を変える機会になると思います。自分の周り・環境を考え、違う場所に行ってみたい・違う環境でチャレンジしてみたいと思う人はぜひ留学制度を活用してみてください。



四ノ宮さんお気に入りの場、津和野の俵種苗店「SHIKINOKA」店主・俵志保さんと。



島根県立 津和野高等学校

〒 699-5605

島根県鹿足郡津和野町後田ハ 12-3

☎ 0856-72-0106 fax 0856-72-0329



つわの学びみらい

発行：一般財団法人 つわの学びみらい